

講義番号	-
授業科目	実践コミュニケーション論
担当教員(所属)	長光 正明 (社会文化科学研究科系)
学期	2020 年度 Q:3,4 学期
曜日・時限	水曜 5, 水曜 6
単位数	2
教室	文・法・経済学部講義棟 13 番講義室
ナンバリングコード	LCEA0ECED I ***N
印刷用ページ	<a href="https://gs.okayama-u.ac.jp/campusweb/campussquare.do?_flowId=SYW4101101-flow&amp;nendo=2019&amp;shozoku=0411&amp;jikanwari=0612&amp;sylocale=ja_JP">https://gs.okayama-u.ac.jp/campusweb/campussquare.do?_flowId=SYW4101101-flow&amp;nendo=2019&amp;shozoku=0411&amp;jikanwari=0612&amp;sylocale=ja_JP</a>
科目区分	専門科目
対象学生	経済学部   年次以上 工学部   年次以上
必修・選択の別	選択
他学部学生の履修の可否	否
連絡先	
オフィスアワー	授業直後
学部・研究科独自の項目	
使用言語	日本語
授業の概要	<p>産学連携かつ学部横断型の課題解決型学習 (PBL) の手法により、アクティブラーニングを 実践し、グローバル社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な「社会人基礎力」の うち、特に「チームで働く力」を鍛える授業である。講義とミニ演習を通じて、チーム活動を円滑 に進めるための技法、協働して独創的な発想を生み出す技法などを習得する。経済学部と工 学部の学生が混成チームを組み、企業が抱える現実の課題、特にグローバル視点 (国際取引 の視点) からの課題に対し、チーム毎の解決策を考える。成果発表会では、両学部の教員な ど関係者を前にプレゼンし、いかに協働して企業のグローバル的課題を解決したかを競う。 PBLテーマは下記 (但し、変更になる可能性がある)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>輸出品の調査報告</b></li> <li>・<b>有望商品の輸入企画</b></li> <li>・<b>商品の輸出をどう行うか (ヒアリング先協力企業の PBL)</b> など</li> </ul> <p>授業の詳細は、次の講義サイトを参照のこと。注: 2018 年度までと講師が一部入れ替わっ ている。</p> <p><a href="http://www.e.okayama-u.ac.jp/practice_communication/">http://www.e.okayama-u.ac.jp/practice_communication/</a></p> <p>受講定員は経済学部と工学部あわせて20名 (経済10、工学10が基本)</p>
学習目的	<p>「社会人基礎力」のうち「チームで働く力」を身につける <b>(特にグローバル・ビジネス環境におけるビジネス・コミュニケーションを通じて身につける)</b></p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の思考と自分の思考の違いの生じ方と、それによって生じる価値を理解する。</li> <li>・個人の意思決定とチームの意思決定の違いを認識し、チームによる思考や意思決定のポ イントを理解する。</li> <li>・チーム活動を通じて価値を導き出すことの難しさと大切さを理解し、チーム活動を円滑に進 めるための技法を習得する。</li> <li>・特にグローバル社会に対応したチーム活動によるPBLを通じ、チームで課題を解決して いくためのスキル及び国際取引のスキルを修得する。</li> </ul>

	<p>・会社訪問、ヒアリング、課題解決結果の発表、コメント拝聴などを通じて、社会人のコミュニケーションのベースラインをもとに、自身のコミュニケーションを振り返り、改善点を見出す。</p> <p>・ESD の手法による SDGs へ向けたグローバル的視野にたつ人材を育成する。</p>
授業計画	<p>【Aクラス】</p> <p>第1回 10月07日(水):オリエンテーション</p> <p>第2回 10月14日(水):授業の目的</p> <p>第3回 10月21日(水):授業の意義</p> <p>第4回 10月28日(水):授業の進め方</p> <p>第5回 11月04日(水):第1課題(1-1)の説明</p> <p>第6回 11月11日(水):課題解決の話し合い</p> <p>第7回 11月18日(水):プレゼンテーション(第1課題の解決策の発表)及び振り返り</p> <p>第8回 11月25日(水):第2課題(2-1)の説明</p> <p>第9回 12月02日(水):課題解決の話し合いと協力企業へのヒアリングの準備</p> <p>第10回 12月09日(水):協力企業へのヒアリング(予定時間 13:00 現地集合～16:00 現地解散)⇒企業訪問のため、通常の講義時間の前後に時間を必要とします。なお、新型コロナの影響により中止になることもあります。</p> <p>第11回 12月16日(水):ヒアリングのまとめとプレゼン(第2課題の解決策の発表)</p> <p>第12回 12月23日(水):第3課題(3-1)の説明</p> <p>第13回 01月06日(水):課題解決の話し合い</p> <p>第14回 01月20日(水):プレゼンテーション(第3課題の解決策の発表)及び振り返り</p> <p>第15回 01月27日(水):成果発表会@文法経講義棟12番講義室(予定)</p> <p>第16回 02月03日(水):振り返り</p>
授業時間外の学習(予習・復習)方法(成績評価への反映についても含む)	<p>授業時間外の学習は必須である。</p> <p>授業の振り返りとPBLテーマに関するレポート及びグループワーク。</p> <p>成績評価に反映する。</p>
(1)授業形態-全授業時間に対する[講義形式]:[講義形式以外]の実施割合	10% : 90%
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-協働的活動(ペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)	多い
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-対話的活動(教員からの問いかけ、質疑応答など)	多い
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-思考活動(クリティカル・シンキングの実行、問いを立てるなど)	多い
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-理解の確認・促進(問題演習、小テスト、小レポート、授業の振り返りなど)	多い
(3)授業形態-実践型科目タイプ	Bタイプ(社会連携の実践活動を一部取り入れている)
(4)授業形態-履修者への連絡事項	<p>・チーム作業の体験を通じたコミュニケーションを体験的に学ぶ</p> <p>企業の実際の課題に対して、社員になったつもりで真剣に課題解決を考える。実践的グローバル・ビジネスの課題を取り上げるため、今まで触れる機会がほとんどなかった分野である</p>

	<p>ため、ややハードルが高いと感じるかもしれないが、学生なりの知識と感性を生かして、真剣に議論し合うことが必要。</p> <p>・出席重視</p> <p>チーム作業の繰り返しになる。個人で予習したり、準備する作業もあるが、それは次のチーム作業のためのものである。チームとしての成果の向上に責任をもつ態度が求められる。</p>
使用メディア・機器・人的支援の活用-視聴覚メディア (PowerPointのスライド、CD、DVDなど)	多い
使用メディア・機器・人的支援の活用-学習管理システム (Moodleなど)	少ない
使用メディア・機器・人的支援の活用-人的支援(ゲストスピーカー、TA、ボランティアなど)	やや少ない
使用メディア・機器・人的支援の活用-履修者への連絡事項	ノートパソコンを授業に持参すること。教室においてインターネットで情報検索したり、パワーポイントの資料を作成したりするため。
教科書	担当教員の指定するインターネットのウェブサイト。
参考書等	特に指定しない。主にネット上の情報での学習となる。
成績評価	毎回の出席は必須である。レポート、チームへの貢献度、チーム活動内容等により総合的に評価する。
担当教員の研究活動との関連	担当教員は民間調査期間の実務経験をもとに、人材育成、実践型教育の研究を行っている。
受講要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての日程に出席できること</li> <li>・自分の行動に責任を持ち、チームに貢献すること</li> </ul>
教職課程該当科目	該当せず
JABEEとの関連	関連せず
主なSDGs関連項目1	目標4 教育 「グローバル視点からの質の高い教育と職業志向の教育による生涯学習の機会の促進」
主なSDGs関連項目2	目標9 産業と技術革新の基盤 「多様化する産業に資する人材インフラ」
主なSDGs関連項目3	目標17 実施手段 「グローバル・パートナーシップの構築」
実務経験のある教員による授業科目	有
備考/履修上の注意/実務経験の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践型科目(B)</li> <li>・指定の期日(月 日)までに、下記メールアドレス宛にエントリーシートデータを提出のこと。</li> </ul> <p>経済学部教務担当: <a href="mailto:ggg7363@adm.okayama-u.ac.jp">ggg7363@adm.okayama-u.ac.jp</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・応募者多数の場合は、成績やエントリーシートにより選考を行う。</li> </ul>